

「上尾市議会」

六月度一般質問

皆様、日頃のご支援有難うございます。

平成二十七年六月度上尾市議会定例会において、六月一九日に、次ぎの一般質問と提案を行いました。

- 一、上尾市の行政経営について
 - 二、幸齢化社会に向けて
 - 三、障がい福祉施策について
- 私の質問と市からの答弁の概要をご報告いたします。

この度の市議会での一般質問は、平成一六年一月に議員就任以来、毎回必ず質問に立つてきましたので、第四六回目となるものです。



質問一

「上尾市の行政経営について」

上尾市の今後の財政は、税収入が減少し、歳出は高齢化に伴い社会保障関係費が増大して行く中で、自主財源の確保が重要となつてきます。単なる行政運営ではなく、経営的感覚が重要です。

今までも、「上尾市営業本部の設置」や、広告収入の増収、市民や職員のアイデアで、企業で言う売上拡大の提案をしてきました。また、歳費削減においても、ゴミの減量、コンピーター委託費など、様々な提案をしてきました。昨年、行政経営部が、新設された一年が経過しました。そこで次のような事項を質問しました。

Q・「行政運営」と

「行政経営」の違いについて

A・「行政運営」は、法令通りに行政を運営していくことです。

「行政経営」は、「ヒト、モノ、カネ」を効率的に配置し、将来的ビジョンや、成長性ある戦略

をもって、効率性をより重視した行政を運営していくことです。

Q・上尾市の行政経営は

どんな方針ですか。

A・市は、上尾市総合計画に従いまちづくりの基本理念、基本方向を定め、各種施策を展開しています。財政状況が厳しさを増し、人口減少時代を迎え、その変化に的確に対応するため、行政改革に強く取組み、公共施設マネジメント計画の実行推進が、行政経営の基本方針です。

Q・上尾市は現状の課題を

どのように認識しているか

A・社会経済情勢の変化から、市民の行政ニーズは多様化し、それ的確に対応する事が必要です。生産年齢人口の減少で税収入の増加は、期待できない一方、高齢化進行による社会保障関係費の増加や、インフラ、公共施設の更新への対応が課題です。

Q・これ迄提案した広告や

自動販売機等の収入状況は

A・広告料の収入は、健康カレンダー、地図案内板、バス停の広告



など過去五年間で二百万円増加し、平成二六年度で千百五十万円増加しています。

自動販売機の貸与収入は、過去五年間で、千三百万円増加して、平成二六年度には、千四百三十万円になっています。

Q・これ迄提案した

歳出削減の進捗状況は、

A・コンピュター委託料は専門家のアドバイスを頂き削減。システム入替え時に、アドバイザーに相談し、保守費用、入替え費用の削減を実施しています。

ゴミ減量も第七次行政改革で実施、リサイクルの啓発活動も行っています。

質問二

「幸齢化社会に向けて」

私は、市民の方の相談を受け、車イス乗車体験をし、課題を感じました。高齢者や車イス利用者が、安心して外出できる環境整備と、安全な歩道や、危険箇所が分かるバリアフリーマップの提案をして

きましたが、その進捗状況と現状の課題の対応について、質問しました。



Q・都市整備部長が車イスを試乗してどのように感じましたか

A 普段は、全く気にならない、数cmの段差で転倒、水はけの為の緩やかな勾配でも、腕に大きな負担が掛りました。

普段歩いていてる時の目の高さ、車イスに乗った時の目線の差で、狭い道では、歩行者や自転車とすれ違う時、圧迫を感じ、危険性のある事を身を持って感じました。

Q・交差点付近などの歩道段差の改善について

A 特に駅や病院・公共施設周辺の交差点や緊急性のある危険箇所においては、車イス利用者や高齢者の視点に立ち、安心して通る事ができるよう工夫し、段差等の擦り付けを実施していきたい。

Q・問題があつた箇所等へは、どう対応しますか

A 施設的な部分やマナーアツプ等、関係機関、所管部署と情報共有し、今後の改善を依頼したいと考えます。

質問 三

「障がい福祉政策について」

第四期上尾市障害福祉計画が策定されたことに関し、その基本的な考え方と、それに関連し障害者就労施設製品の販売促進の現状と課題について質問します。

Q・第四期上尾市障害福祉計画の策定の経緯について

A 障害福祉計画は、障害者総合支援法の規定に基づき策定するものです。障害者等が自立した日常生活や社会生活営めるよう必要な福祉サービス等を定めます。計画期間は、平成二七年度から平成二九年までの三ヶ年間です。

Q・計画の基本的考え方は

A 施設入居者の地域生活への移行ができるよう相談支援体制などの支援を行う考えです。

平成二五年度末時点の施設入居者数一七五人の一二％の二一人と設定し、平成二九年度末までに

移行する計画です。

平成二九年度末就労移行支援事業の利用者を平成二五年度末の利用者数の六割以上に増やすことです。「生活介護」の事業所は現在一〇か所です。既存の事業所に対し、ニーズに対応して定員増を要請してゆきます。

Q・障害者就労施設製品の販売促進について伺いたい。

A 昨年十一月五日に市役所一階に「ふれあいの店」を改装開店し、日用品や食料品などの他、障害者就労施設製品販売の常設店として、市民の利用が増加傾向にある現状です。

今後、一層の販売拡大を検討して行きます。
年2回開催の上尾駅自由通路の「上尾市障害者手づくり市」は、十一団体が参加し当初の倍の売上げとなっております。



提案

「上尾市障がい者手づくり市の

会」を設立、市民・ボランティアで経営体制を確立する事。

A 現在、障がい者手づくり市の運営体制は、市が事務局となり関係者で組織する実行委員会形式をとっています。

今後、実行委員会の中で、経営体制等を検討して行きたいと考えます。

***道下文男議員所属委員会等**

(平成二七年度七月現在)

- ・文教・経済常任委員会委員長
- ・議会改革特別委員会委員長
- ・上尾市地域創生総合戦略

審議委員

- ・上尾市スポーツ推進審議会委員
- ・上尾市廃棄物減量等

推進審議会副会長

- ・上尾市農業後継者育成確保
- ・上尾市立小・中学校通学区

推進対策協議会委員

- ・上尾市上尾道路路対策協議会委員

地域検討協議会会長

市民相談はお気軽に

【連絡先】 みちした文男

電話 〇四八―七七五―七九〇九

FAX 〇四八―七七五―七九一五